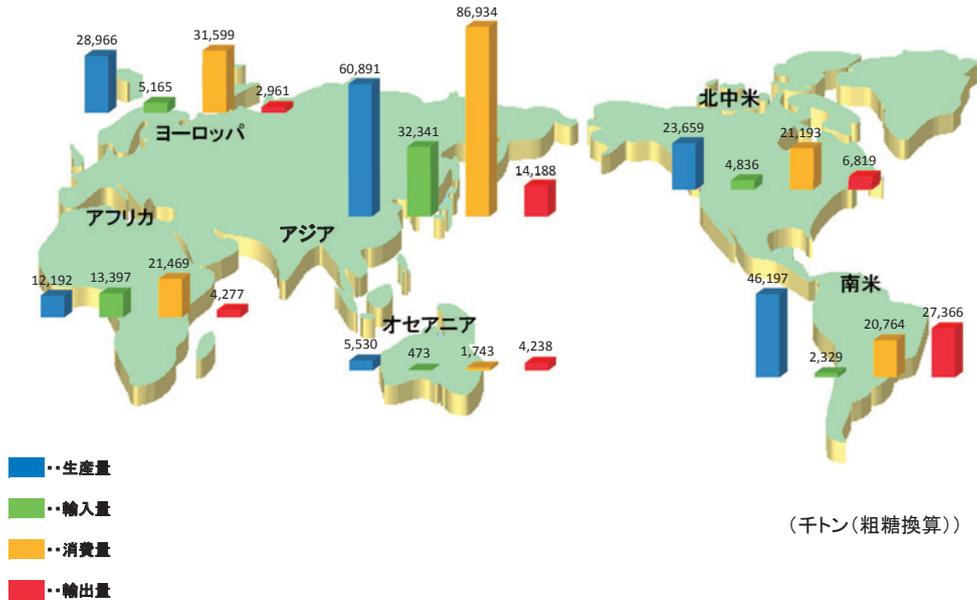


## 砂糖の国際需給

調査情報部 丸吉 裕子

### 1. 世界の砂糖需給（2016年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2016/17年度予測値）



資料：Agra CEAS Consulting※ [World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,December 2016]  
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)

注1：年度は2015年10月～翌9月。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）の2016年12月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2016/17砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億7744万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、前年度比1.6%増）とわずかな増加が見込まれている（表1）。これは、主要生産国であるブラジルとインドを除いた大半の地域で、生産量の回復が見込まれているためである。特に、前年度に在庫抑制などの要因から

大幅減産となったEUは、2017年9月末の生産割当廃止を目前に、生産量の増加が見込まれている。

また、同年度の世界の砂糖消費量は、人口増加や経済成長に伴い主にアジアやアフリカにおいて堅調に推移していることから、1億8370万トン（同1.5%増）とわずかな増加が見込まれている。

前年度に続き、2016/17年度も砂糖消費量が生産量を上回ることから、期末在庫率は33.9%（同4.7ポイント減）と見込まれ、世界の砂糖需給のひっ迫化の進行が懸念されている。なお、地域別の砂糖需給は図1の通りとなっている。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,448	151,609	49,876	161,864	50,977	60,092	37.1
2012/13	63,965	184,182	59,214	171,672	61,611	74,077	43.2
2013/14	74,077	181,466	58,562	175,764	59,245	79,097	45.0
2014/15	79,097	180,960	58,539	178,828	59,632	80,135	44.8
2015/16	80,135	174,673	62,275	181,051	66,201	69,832	38.6
2016/17 (2016年9月予測)	70,409	174,760	58,542	183,550	58,669	61,493	33.5
2016/17 (2016年12月予測)	69,832	177,435	58,541	183,701	59,849	62,258	33.9

資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,December 2016」

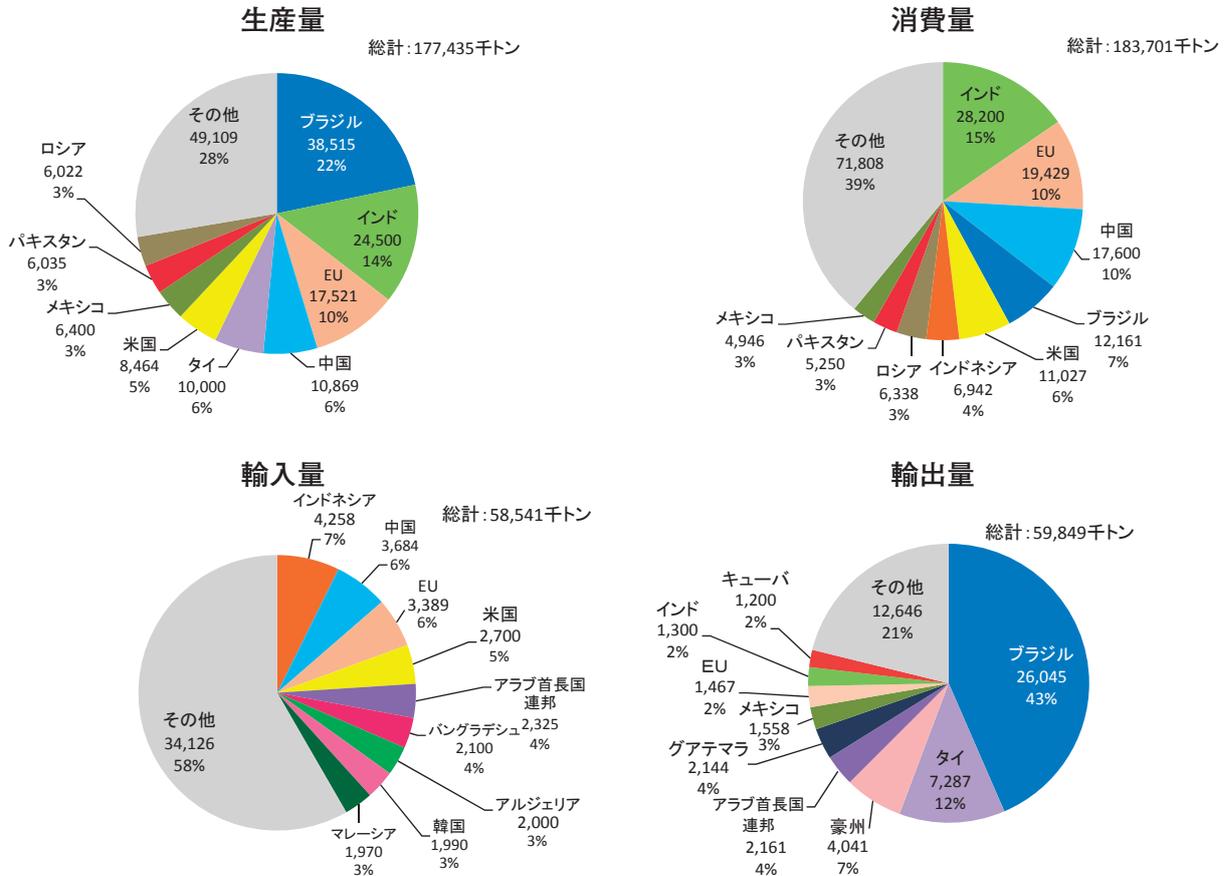
注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2013/14年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度は予測値である。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）である。

## 2. 主要国の砂糖需給（2016/17年度12月予測値）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量



資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,December 2016」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：上位9カ国とその他を表示。

注3：円グラフのその他は総計から主要国の計を差し引いた数値。

## 【生産量】

2016/17年度（10月～翌9月）の主要国の砂糖生産量は、最大生産国であるブラジルが、3852万トン（前年度比4.9%減）とやや減少が見込まれている（図2）。これは、前年度に天候不順を理由に年度を跨いで行われていたサトウキビの収穫が、今年度は大規模には行われないと見込まれていることなどから、原料であるサトウキビ収穫量の減少が予想されているためである。

さらに、インドは、主要生産地域であるウツタルプラデシュ州やカルナタカ州南部においてモンスーン時期の降雨量が例年を下回り、新植サトウキビの生育に影響が生じていることなどから、2450万トン（同10.4%減）とかなりの減少が見込まれている。また、タイも、1000万トン（同0.2%減）と前年度並みにとどまり、中国の増産により、生産量第5位に転ずると見込まれている。

一方、パキスタンとロシアは、生育時期の天候に恵まれてん菜の単収の向上が予想されることから、それぞれ604万トン（同8.5%増）、602万トン（同5.8%増）と、ともに増加が見込まれている。

## 【輸入量】

2016/17年度の主要国の砂糖輸入量については、インドネシアが、減産に伴う国内供給の充当のため426万トン（前年度比9.1%増）とかなり増加し、中国を抜き最大の輸入国になると見込まれている。

一方、中国は、政府が備蓄在庫の放出を開始したことにより、368万トン（同40.6%減）と大幅な減少が見込まれている。

また、米国は、生育時期の天候に恵まれたことにより、サトウキビ、てん菜ともに生産量の増加が見込まれ、それに伴い砂糖の増産も予想されることから、270万トン（同10.7%減）とかなりの減少が見込まれている。

## 【消費量】

2016/17年度の主要国の砂糖消費量は、インド、中国、ブラジル、ロシアは、それぞれ2820万トン（前年度比1.3%増）、1760万トン（同2.9%増）、1216万トン（同1.3%増）、634万トン（同1.6%増）と、いずれも堅調に推移し、わずかな増加が見込まれている。

また、経済成長や人口増加の著しいアジア圏の増加が見込まれており、インドネシアが694万トン（同2.3%増）、パキスタンが525万トン（同2.4%増）と、ともにわずかな増加が見込まれている。

## 【輸出量】

2016/17年度の主要国の砂糖輸出量は、最大輸出国であるブラジルが、生産量の減少に伴い2605万トン（前年度比12.6%減）と、かなりの減少が見込まれている。

また、前年度の輸出量が第3位であったインドは、高騰する国内砂糖価格の安定化を図るため、政府が輸出関税の導入や製糖企業に対する保有在庫の上限設定を行っていることなどから、130万トン（同67.5%減）と大幅に減少し、第8位に転ずると見込まれている。

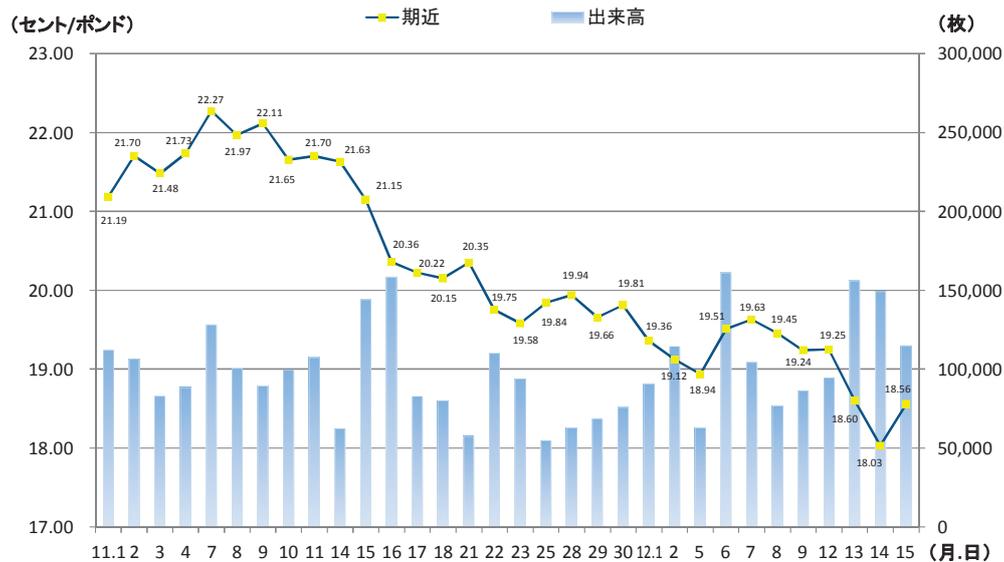
一方、EUは147万トン（同13.7%増）とかなりの増加が、キューバは前年度の減産からの生産量回復に伴い、120万トン（同50.0%増）と大幅な増加が見込まれている。

### 3. 国際価格の動向

#### ニューヨーク粗糖相場の動き (11/1 ~ 12/15)

～ドル高レアル安の進行により、1ポンド当たり18.03セントまで下落～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)

ニューヨーク粗糖先物相場（期近3月限）は、11月1日の1ポンド当たり21.19セントから、ブラジル中南部地域の降雨によりサトウキビ圧搾作業に影響が生じたことから上昇傾向で推移したものの、9日に同22.11セントを付けた後は、ドル高レアル安に加えて、ブラジルサトウキビ産業協会 (UNICA) (注) が17日に発表した10月後半の生産量が予想を若干上回ったことから相場は下げに転じ、18日は、同20.15セントに値を下げた。その後も相場は弱含みで推移し、30日は同19.81セントとなった。

12月に入ってからも続落し、5日は8月以来の18セント台に下落した。翌6日には急反発し、7日は同19.63セントの値を付けたものの、レアル安の進行により軟調に推移し、13日には同18.60セントと6月以来の低水準となったことから、さらに14日は売り込まれ、同18.03セントまで落ち込んだ。15日には買い戻りが入り反発し、同18.56セントとなった。

(注) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

## 4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2016年12月時点予測)

### ブラジル

#### 2016/17年度 (4月～翌3月) の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：959万ha (前年度比6.6%増)  
生産量：6億8195万トン (同2.5%増)

##### 【砂糖 (甘しや糖)】

生産量：3960万トン (同12.5%増)  
輸出量：2765万トン (同10.1%増)

### 2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

2016/17砂糖年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、収穫期の天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれるため、959万ヘクタール (前年度比6.6%増) とかなりの増加が見込まれるものの、単収の低下が見込まれることから、生産量は6億8195万トン (同2.5%増) と、わずかな増加にとどまると見込まれている。

一方、国際砂糖価格の上昇により、製糖企業がサトウキビの砂糖への仕向け割合を増やしていることや製糖歩留まりが向上していることなどから、砂糖生産量は、3960万トン (同12.5%増) とかなりの増加が見込まれている。さらに、連邦政府が、エタノール販売に係る社会負担税 (エタノール1リットル当たり0.12リアル (4円 (11月末日TTS: 1リアル=33円))) を2017年1月より再導入する方針であることから、今後、製糖企業がサトウキビの砂糖への仕向け割合をさらに増加させると、砂糖生産量は、上方修正される可能性も考えられる。砂糖の増産に伴い、輸出量も、2765万トン (同10.1%増) とかなりの増加が見込まれている。

また、ブラジルサトウキビ産業協会 (UNICA) が発表した2016年4月～10月の生産実績報告によると、同国中南部地域のサトウキビ圧搾量は、5億3731万トン (前年同期比4.2%増) とやや増加し、砂糖生産量も3207万トン (同16.6%増) と

大幅に増加した。これは、サトウキビ圧搾量の増加に加え、サトウキビ1トン当たりの産糖量が59.7キログラム (同11.9%増) とかなり増加していることや、企業が砂糖への仕向け割合を増やしているためとみられる。

なお、同報告によると、同期間のエタノール生産量は、2257万キロリットル (同4.2%減) とやや減少となった。また、同期間の輸出量も含めたエタノールの販売量は、1617万キロリットル (同9.4%減) となった。このうち、含水エタノール<sup>(注)</sup>の国内販売量は、924万キロリットル (同16.2%減) と、エタノールのガソリンに対する価格優位性の低下などから、大幅に減少した。

ブラジル政府が本年4月に、タイの砂糖政策における間接的な補助金は国際協定に違反するとして、世界貿易機関 (WTO) に提訴している問題で、ブラジルとタイの2国間協議が11月3日に行われ、タイ政府より砂糖政策の改革案が提出された。しかし、この改革案が施行され、当該補助金が廃止されるまでには時間を要することから、UNICAは、ブラジル政府に対し2016年内のWTOパネルの設置を要望している。

また、現地報道によると、北東部ペルナンブコ州のスアベ港に新設された砂糖ターミナルで11月中旬、砂糖輸出が開始され、アルゼンチンへ2万トンの精製糖が輸出された。同港では、地元ペルナンブコ州のほか、隣接するアラゴアス州で生産された精

製糖年間50万トンの輸出が計画されている。なお、同ターミナルの建設費は5800万レアル（19億1400万円）である。

(注) 自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段

階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

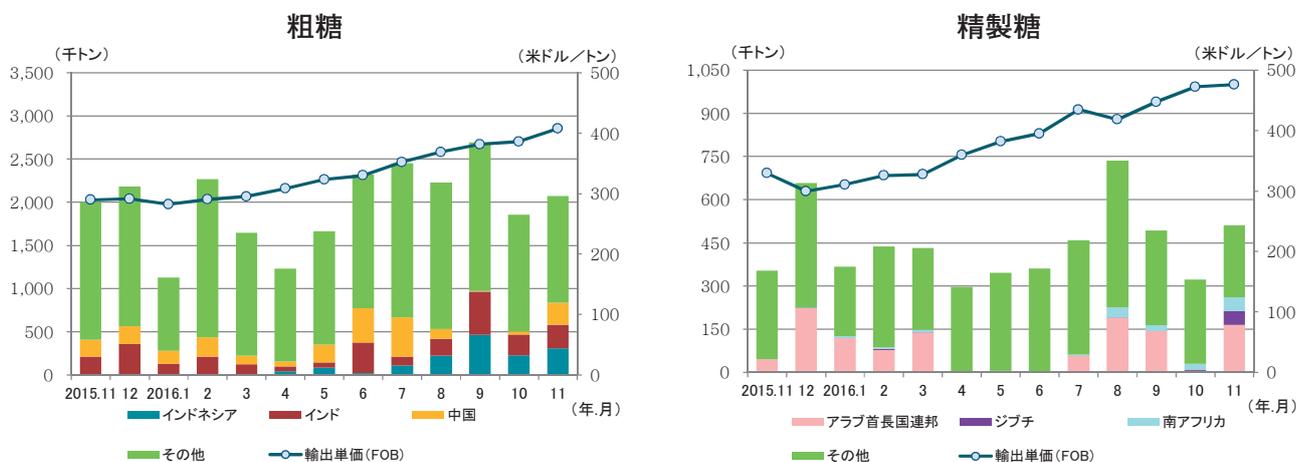
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (11月予測)	2016/17 (12月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,811	9,004	8,996	9,585	9,585	6.6
サトウキビ生産量	658,822	634,767	665,586	681,952	681,952	2.5
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	39,600	12.5
	輸入量	-	-	-	-	-
	消費量	12,640	12,400	12,000	12,000	0.0
	輸出量	27,053	24,666	25,124	27,600	10.1
	期末在庫量	2,296	2,543	613	613	▲ 8.0
	期末在庫率	18.2	20.5	5.1	5.1	▲ 8.0
						4.7

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2016」

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## インド

### 2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）  
生産量：3億3193万トン（同7.5%減）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2450万トン（同10.4%減）  
輸出量：130万トン（同68.5%減）

### 2016/17年度の砂糖生産量はかなり減少、輸出量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は3億3193万トン（同7.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。このため、砂糖生産量も、2450万トン（同10.4%減）とかなりの減少が見込まれている。

しかしながら、前年度に比べ、操業を早めた工場が多かったことから、インド砂糖製造協会（ISMA）が発表した2016年10月～11月の生産実績報告によると、砂糖生産量は、精製糖換算で274万トン（前年同期比17.4%増）と大幅に増加した。サトウキビ栽培面積が拡大し、最大の生産州になると見込まれているウッタルプラデシュ州では85万トン（同5倍）、第3位のカルナタカ州では70万トン（同24.8%増）と、ともに大幅に増加した一方で、マハラシュトラ州では95万トン（同26.3%減）、グジャラート州では14万トン（同39.1%減）と大幅に減少した（図4）。

また、同国では、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰しており、中央政府は、国内市場での砂糖の流通量を増やし、価格の安定化を図ることとしている。このため、同政府は6月中旬以降、粗糖を輸入して6カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除いた砂糖の輸出に対し、輸出関税（20%）を導入している。

さらに、製糖企業に対する砂糖在庫量の上限定（注）は10月26日、2017年4月までの延長が閣議で承認された。これらにより、砂糖輸出量は、130万トン（前年度比68.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

現地報道によると、同政府は、砂糖の輸入関税の撤廃もしくは引き下げも検討している。ただし、砂糖の減産による国内供給の不足分を輸入砂糖で充当しつつも、輸入による国内価格への影響を最小限にとどめるよう慎重な検討がなされている。

一方、現地報道によると、11月8日の高額紙幣廃止以降、砂糖需要が減退し、ウッタルプラデシュ州では、砂糖卸売価格が1キログラム当たり約36ルピー（64円（11月末日TTS：1ルピー＝1.79円））から約34.5ルピー（62円）に低下している。製糖初期にもかかわらず、製糖企業は大口の販売を行えず、製糖工場から生産者へのサトウキビ代金支払いの遅延が懸念されている。

（注）中央政府は、貿易業者に限定していた砂糖在庫量の上限定を製糖企業にも適用することとし、当初の適用期間は、砂糖の需要が高まるディワリ（ヒンズー教における新年を祝う最大のお祭り）の祭事前の9月から10月までとしていた。各製糖企業が保持できる在庫量は、9月末時点では2015/16年度の砂糖生産量の37%、10月末時点では同24%を上限と設定していた。

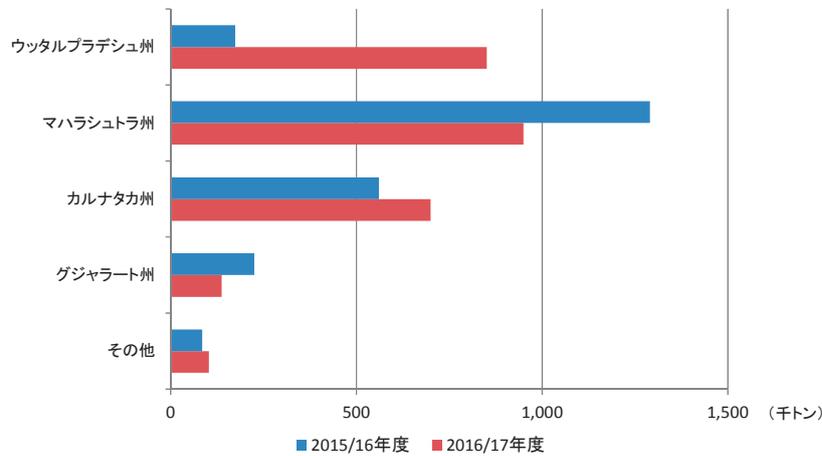
表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (11月予測)	2016/17 (12月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	331,926	331,926	▲ 7.5
砂糖	生産量	26,580	30,616	27,350	24,500	▲ 10.4
	輸入量	1,349	1,303	1,963	1,300	▲ 33.8
	消費量	26,295	27,842	27,826	28,200	1.3
	輸出量	2,742	2,608	4,131	1,300	▲ 68.5
	期末在庫量	8,223	9,692	7,048	3,446	▲ 52.5
	期末在庫率	31.3	34.8	25.3	12.2	▲ 53.1

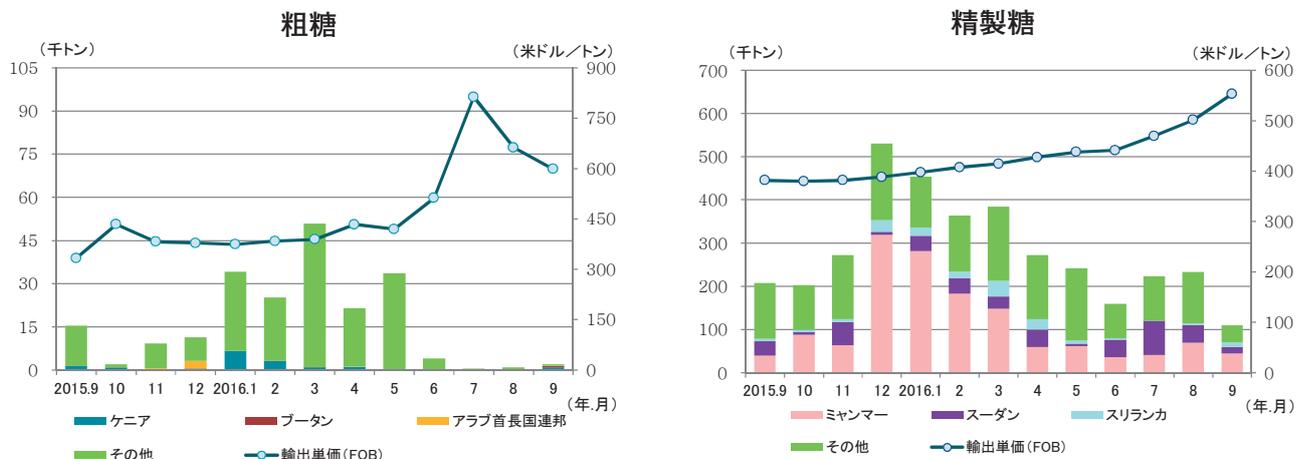
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2016」

図4 インドの地域別甘しや糖生産実績 (10月～11月の生産量)



資料：ISMA  
注：精製糖換算。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## 中国

### 2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha（前年度比10.0%増）・15万ha（同10.0%増）

生産量：1億2652万トン（同7.9%増）・771万トン（同5.0%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1087万トン（同14.9%増）

輸入量：368万トン（同40.6%減）

### 2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビ収穫面積が183万ヘクタール（前年度比10.0%増）、生産量が1億2652万トン（同7.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。これは、広西チワン族自治区や海南省における栽培面積の増加に加えて、良好な生育状況が要因である。

また、てん菜収穫面積は、15万ヘクタール（同10.0%増）とかなり増加し、生産量は771万トン（同5.0%増）とやや増加と予想されている。これは、主要生産地である内モンゴル自治区の生産量の増加などが要因である。これらにより、砂糖生産量は、1087万トン（同14.9%増）とかなりの増加が見込まれている。

また、中国砂糖協会（CSA）が発表した2016年10月～11月の生産実績報告によると、砂糖生産量は、精製糖換算で65万トン（前年同期比19.5%増）と大幅な増加となった（図5）。これは、てん菜糖は56万トン（同11.8%増）とかなり増加し、甘しゅ糖は9万トン（同2倍）と大幅に増加したことによる。

なお、CSAは先に2016/17年度の砂糖生産見通しを発表している。これによると、精製糖換算で、甘しゅ糖が896万トン（前年度比14.1%増）、てん菜糖が104万トン（同22.4%増）とともに増加し、

全体で1000万トン（同15.1%増）とかなりの増加が見込まれている。特に、最大生産地域である広西チワン族自治区の甘しゅ糖生産量は600万トン（同17.4%増）、内モンゴル自治区のてん菜糖生産量が47万トン（同65.5%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

砂糖の増産に加え、中国国家発展改革委員会（NDRC）<sup>（注）</sup>が9月、政府による備蓄砂糖35万トンの国内市場への年内の放出を発表し、備蓄在庫の国内企業への売り渡しが11月初旬に開始されたことなどから、砂糖輸入量は、368万トン（同40.6%減）と大幅な減少が見込まれている。

また、現地報道によると、中央政府は2020年までの新たな燃料用エタノール生産計画（5カ年）を発表した。これによると、エタノール生産目標は先の2015年までの計画で達成できなかった400万トンに据え置かれており、中央政府が4月にトウモロコシの備蓄政策を停止したことなどにより、トウモロコシのエタノール仕向け量が増加するとの予測から、達成は容易であるとの見方もある。

（注）財政金融政策の策定や公共事業の認可などを行う政府機関。砂糖産業においては、砂糖の国家備蓄計画の総合調整および備蓄放出の提言、輸出入総量計画の作成を行う。

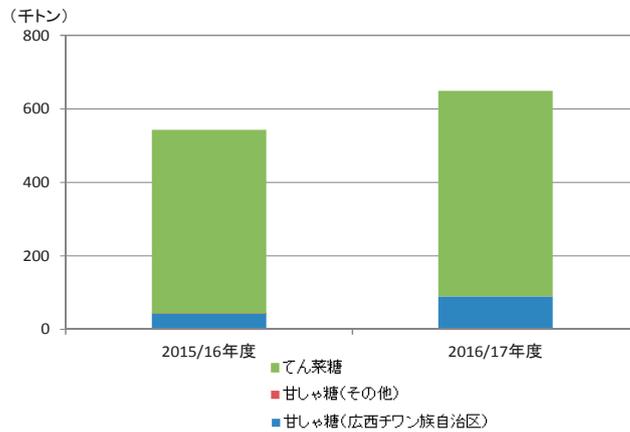
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (11月予測)	2016/17 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0	
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9	
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0	
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0	
砂糖	生産量	14,476	11,474	9,459	10,500	10,869	14.9
	輸入量	4,054	5,354	6,199	3,900	3,684	▲40.6
	消費量	16,150	16,600	17,100	17,600	17,600	2.9
	輸出量	51	64	167	80	82	▲50.8
	期末在庫量	7,141	7,305	5,696	2,341	2,566	▲54.9
	期末在庫率	44.2	44.0	33.3	13.3	14.6	▲56.2

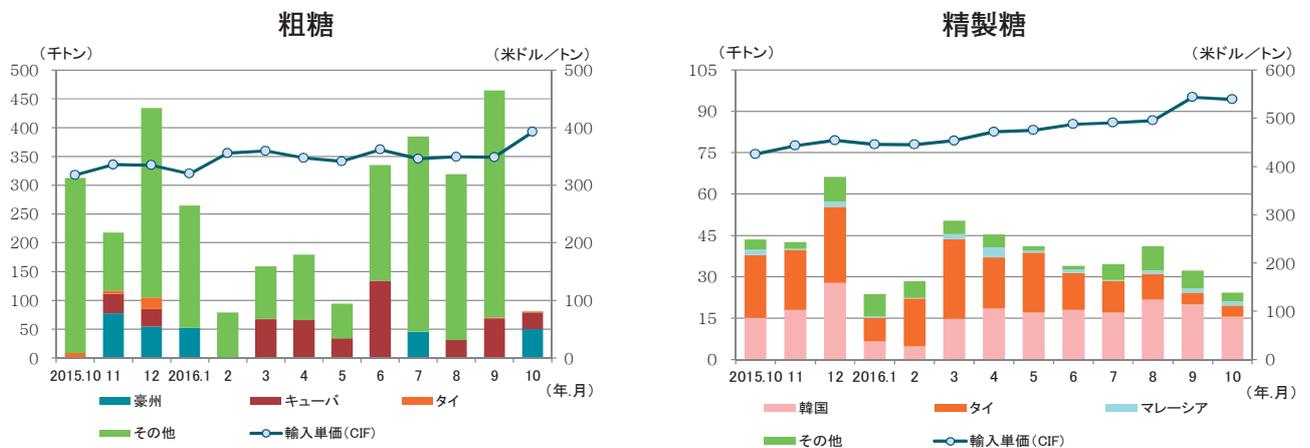
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2016」

図5 中国の砂糖生産実績（10月～11月の生産量）



資料：CSA  
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## E U

### 2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【てん菜】

収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）

生産量：1億1218万トン（同6.7%増）

#### 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1752万トン（同18.8%増）

輸入量：339万トン（同5.7%増）

### 2016/17年度の砂糖生産量は大幅増、輸入量はやや増加の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8%増）、生産量は1億1218万トン（同6.7%増）と、ともにかなりの増加が予想されている。2017年10月以降の生産割当制度の廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっているとみられる一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られている。記録的な生産量となった2014/15年度に比べ、春先の低温や降雨のため単

収が低下すると見込まれているものの、前年度と比べて産糖量の向上が見込まれていることなどから、砂糖生産量は、1752万トン（同18.8%増）と大幅な増加が予想されている。

砂糖輸入量は、特惠関税で輸入した砂糖を再輸出する動きが見られることから、339万トン（同5.7%増）とやや増加が予想されている。

一方、欧州委員会が9月下旬に公表した2016/17年度の生産予測によると、てん菜作付面積は141万ヘクタール（同7.6%増）、砂糖生産量も1666万トン（同11.6%増）と、ともにかなりの増加が予想されている。

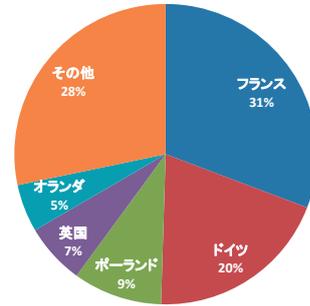
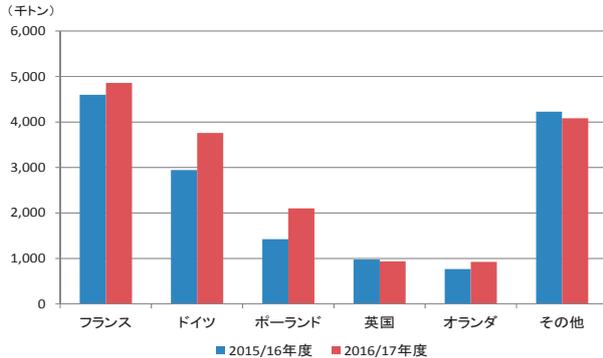
表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (11月予測)	2016/17 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8	
サトウキビ生産量	108,979	131,009	105,162	112,184	112,184	6.7	
砂糖	生産量	16,867	19,318	14,752	17,521	18.8	
	輸入量	3,944	3,456	3,206	3,389	5.7	
	消費量	19,268	19,281	19,334	19,429	0.5	
	輸出量	1,540	1,558	1,297	1,467	13.1	
	期末在庫量	9,161	11,096	8,423	8,258	8,436	0.2
	期末在庫率	47.5	57.5	43.6	42.5	43.4	▲ 0.3

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2016]

(参考) EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会  
 注1：精製糖換算。  
 注2：2016年9月時点での予測値。  
 注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。  
 注4：生産割合は2015/16年度。

## 5. 日本の主要輸入先国の動向 (2016年12月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖（HSコード1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200）の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2015年の主要輸入先国ごとの割合は、タイが56.0%（前年比1.9ポイント減）、豪州が39.0%（同8.7ポイント増）、グアテマラが4.9%（同3.2ポイント増）と、この3カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

タイおよび豪州は毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はグアテマラを報告する。

### タイ

#### 2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

**【サトウキビ】**

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）  
 生産量：1億436万トン（同11.0%増）

**【砂糖（甘しや糖）】**

生産量：1000万トン（同0.2%減）  
 輸出量：729万トン（同6.6%減）

#### 2016/17年度の砂糖生産量は前年度並み、輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビ収穫面積は141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みと見込まれる一方、長引く干ばつの影響により特に新植サトウキビの生育不良が見られるものの単収は前年度ほど低下しないと見込まれることから、生産量は1億436万トン（同11.0%増）と、かなりの増加が見込まれている。

しかし、サトウキビの生育不良に加え、長雨により例年より約1カ月遅れの12月上旬からの収穫となったことから、製糖歩留まりの低下が予想され、砂糖生産量は、1000万トン（同0.2%減）と前年度並みと見込まれている。輸出量は、中国の輸入減少などに伴い、729万トン（同6.6%減）と、かなりの減少が見込まれている。

現地報道によると、タイ政府は、インラック政権時代に担保融資制度に基づき買い取った品質の低下

したコメ400万トン、エタノール原料として市場へ放出する方針を明らかにした。これは、サトウキビの収穫遅延に伴い、エタノールの主原料である糖みつの供給が遅れていることから、エタノール需給のひっ迫化が予想されるためとみられる。

ブラジル政府により4月にWTOに提訴されている問題<sup>(注1)</sup>で、タイ政府は11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。この改革案には、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7:3の割合で分配する収益分配方式や販売割当<sup>(注2)</sup>を廃止するとともに、政府が設定している国内の砂糖価格を変動制に移行することが盛り込まれている。現地報道によると、現在、1キログラム当たり

23.5バーツ（76円（11月末日TTS：1バーツ＝3.24円）に固定されている砂糖の小売価格には、変動幅が同1～2バーツ（3～6円）となるよう値幅制限が設けられるという。タイ政府は、この改革案の来年度からの施行を目指し調整を行っている。

(注1) ブラジル政府は4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当制度および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、4月初旬にWTOにタイ政府を提訴していた。

(注2) タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当制度に基づき管理されている。

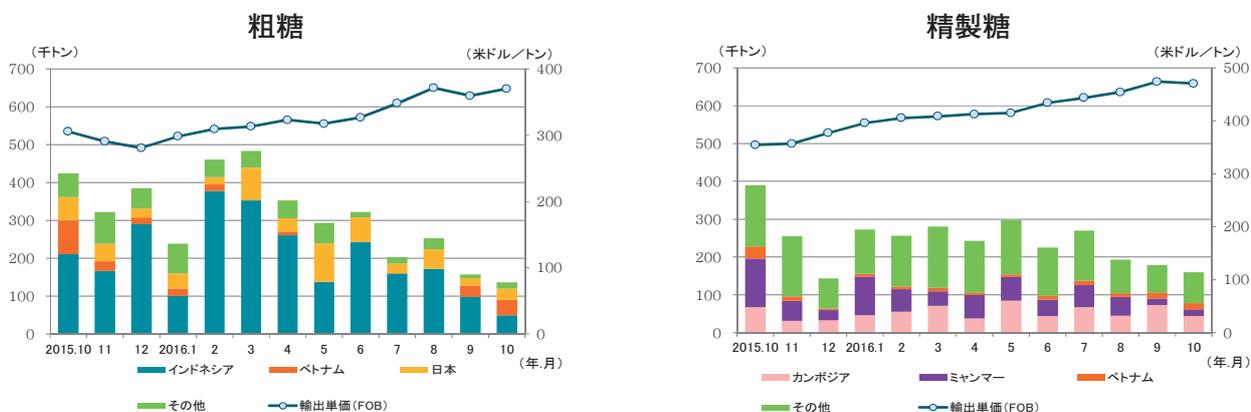
表6 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (11月予測)	2016/17 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2	
サトウキビ生産量	100,096	105,595	94,047	104,363	104,363	11.0	
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,025	9,700	10,000	▲ 0.2
	輸入量	-	-	0	-	-	-
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	7,287	7,287	▲ 6.6
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	3,421	3,721	▲ 17.5
	期末在庫率	172.8	165.9	128.8	97.7	106.3	▲ 17.5

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2016]

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出货量および輸出単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## 豪州

### 2016/17年度（7月～翌6月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：42万ha（前年度比5.8%増）

生産量：3443万トン（同4.0%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：523万トン（同5.8%増）

輸出量：401万トン（同2.5%減）

### 2016/17年度の砂糖生産量はやや増加、輸出量はわずかに減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）は、サトウキビ収穫面積が42万ヘクタール（前年度比5.8%増）、生産量が3443万トン（同4.0%増）と、ともにやや増加が見込まれている。現地報道によると、ニューサウスウェールズ州や主産地であるクイーンズランド（QLD）州の一部の地域で降雨が続いたことから、例年10月で終了するサトウキビの圧搾作業が11月まで行われるなど遅延が生じたものの、製糖作業は、各企業により稼働率を上げて行われている。

サトウキビの増産に加え、製糖歩留まりの向上も見られることから、砂糖生産量は523万トン（同5.8%増）と、やや増加が見込まれている。一方、中国の輸入減少などに伴い、輸出量は401万トン（同2.5%減）と、わずかな減少が見込まれている。

QLD州砂糖公社（QSL）<sup>（注）</sup>は12月15日、来年度からQSLを介さず砂糖輸出を行うと表明していた製糖企業3社のうち2社が生産する砂糖の一部について、サトウキビ生産者が希望すれば、QSLを介して輸出できる契約を締結したと発表した。QSLによる輸出を希望する生産者が多いことから、残り1社に対しては10月末以降、連邦政府のジョ

イス農相が会談の機会を設け、他の2社と同様、生産者の権利の尊重するよう働きかけたとの報道がある。

また、11月23日、増加傾向にある肥満対策のため、砂糖を含む清涼飲料水に対する課税導入を推奨する報告書が、連邦議会に提出された。この報告書では、非アルコール飲料に含まれる砂糖100グラム当たり0.4豪ドル（34円（11月末日TTS：1豪ドル=86円））の課税により、約5億豪ドル（430億円）の税収が見込まれ、砂糖を含む飲料の消費は約15%減少し肥満防止につながるとしている。一方で、豪州コンビニエンスストア協会は、同報告書には同税の導入が肥満を抑制するという証拠がなく、小規模経営に打撃を与えかねないとして非難している。また、連邦政府のジョイス農相は、同税の導入を否定する姿勢を示している。

（注） QLD州産砂糖の輸出を担う公社。1999年に施行された同州砂糖産業法に基づき、同州産砂糖の輸出は同公社に一元化されていたが、2006年の法改正により一元化は廃止となった。その後も利便性などから同公社の輸出量が同州産砂糖の9割を占めていたものの、同州の砂糖産業への外資系企業参入に伴い、その割合が減少している。

表7 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (11月予測)	2016/17 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	329	363	393	416	416	5.8	
サトウキビ生産量	27,136	32,360	33,101	34,427	34,427	4.0	
砂糖	生産量	4,306	4,773	4,946	5,230	5.8	
	輸入量	159	170	98	140	42.4	
	消費量	1,345	1,350	1,350	1,382	0.4	
	輸出量	3,066	3,687	4,111	4,008	▲ 2.5	
	期末在庫量	1,162	1,068	650	993	657	1.1
	期末在庫率	86.3	79.1	48.1	71.9	48.5	0.8

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2016]

## グアテマラ

### 2016/17年度（11月～翌10月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：26万ha（前年度比1.5%増）  
生産量：2415万トン（同1.3%増）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：305万トン（同2.8%増）  
輸出量：215万トン（同2.8%増）

### 2016/17年度は砂糖生産量、輸出量ともにわずかに増加の見込み

2016/17砂糖年度（11月～翌10月）のサトウキビ収穫面積は、26万ヘクタール（前年度比1.5%増）、生産量は2415万トン（同1.3%増）と、ともにわずかな増加が見込まれている。砂糖生産量は、製糖歩留まりの向上が予想されることから、305

万トン（同2.8%増）とわずかな増加が見込まれている。

また、主要国の減産による世界の砂糖需給ひっ迫化を受けて、国際砂糖相場が高値にあることから、輸出量は、215万トン（同2.8%増）とわずかな増加が見込まれている。

表8 グアテマラの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (11月予測)	2016/17 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	262	262	252	256	256	1.5	
サトウキビ生産量	26,335	26,335	23,844	24,151	24,151	1.3	
砂糖	生産量	2,949	3,130	2,966	3,050	2.8	
	輸入量	1	1	1	1	0.0	
	消費量	910	900	900	817	900	0.0
	輸出量	1,993	2,411	2,091	2,066	2,150	2.8
	期末在庫量	490	310	286	388	287	0.3
	期末在庫率	53.8	34.4	31.8	47.5	31.9	0.3

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2016]